

映画『シード～生命の糧～』

配給ユナイテッドピープル、2019年6月公開

「94%」—20世紀に消滅した種子の割合だといいます。私たちの生命の源である種子がたった100年の間に9割以上も消滅し、多様性が失われてきています。

今、地球上で何が起きているのか、そして私たちに何ができるのか。種を通じて、気候変動、大企業による独占、遺伝子組み換え作物などの様々な問題が伝えられ、さらに種の多様性を守ろうとする世界各地の取り組みが描かれています。

種は、小さなタイムカプセル。これまでの記憶や文化が詰まっていて、そして未来を作るもの。それは食べものになったり、衣服になったり、家になったり。当たり前すぎて忘れがちなことを気付かせてくれる、そして観ていて希望がこみ上げてくる後味のよい映画です。

2018年4月、戦後日本の種子を守ってきた「主要農作物種子法」が廃止されました。種子が少数の大企業により独占され、農民が自由に栽培することができなくなる時代が来るかもしれません。種子の大切さを再認識する必要がある今だからこそ、ぜひ多くの方に観てもらいたい作品です。映画を観終えたあとに、きっとあなたも種を蒔いてみたくなるはずです。

寺田俊(てらだ・しゅん/APLA)

『シード』の詳細は公式サイト→<http://unitedpeople.jp/seed/>



特定非営利活動法人APLA(Alternative People's Linkage in Asia)
フィリピン・ネグロス島での30年以上の経験を活かし「農を軸にした地域づくり」のためのネットワークの構築を目指して、出会いや交流の場の創造を進めています。 www.apla.jp

株式会社オルター・トレード・ジャパン(ATJ)
パラゴンバナナやエコシュリンプなどの食べ物の取引で、生産者と消費者の顔と顔が見える関係でつなぎ、人と人、自然が共生できる社会づくりを目指しています。 <http://altertrade.jp>

〒169-0072 東京都新宿区大久保2-4-15サンライズ新宿3F
TEL03-5273-8160 FAX03-5273-8667 MAILinfo@apla.jp

過去のPtoP NEWSはこちら

特定非営利活動法人APLA

人から人へ PtoP ピープル NEWS vol.33 2019.08

PtoP: 作る人と食べる人が共に支え合う仕組み



特集

バナナの民衆交易が
山村の風景を変えた



バナナの買取・検品作業の様子

夢を形に 確かな会計の仕組み作りに奮闘中

エルシーさん(カカオキタ社会計担当) from インドネシア・パプア

エルシーさんは、インドネシア・パプア州でカカオ事業を営むカカオキタ社の会計担当です。本名はマリエリス・イリアニ・ジェム・アジッド、という誰も覚えられない長い名前なので、皆からエルシーと呼ばれています。先祖はヌサトゥンガラ・ティムール地方(注)の出身だそうですが、彼女自身は生まれも育ちもパプアです。

2018年12月からカカオキタ社で働き始めた新しいスタッフですが、まるで長年働いているかのように、当初から他のスタッフに次々と指示を出すことを躊躇せず、仕事を軌道に乗せて進めることに貢献しています。

エルシーさんは1990年代にパプア農村発展財団(YPMD-Papua、以下YPMD)の会計担当として、現在カカオキタ社の代表を務めるデッキー・ルマロペンさんと一緒に働いていた仲間でした。デッキーさんとの出会いはYPMDの採用試験だったとか。26人の応募者から3人採用されたうちの2人がデッキーさんとエルシーさんでした。初任給は日本円にして月給1200円。現在の最低賃金の20分の1で、当時としても低い給料でしたが、パプアの農村地域の発展を目指す財団の理念に希望を抱きながら働いていたそうです。今でもデッキーさんとは「あの頃は本当にお金じゃなかったけど、皆で

村に行って泣いたり笑ったり、楽しかったね」と当時を振り返っています。

その後2000年にジャカルタの財団に転職したエルシーさんですが、2017年、高齢の母親と同居するために故郷ジャヤブラに戻ってきました。久々に訪れたYPMD事務所、そこで今はカカオキタ社の代表を兼任しながら活動するデッキーさんに再会します。YPMD時代と同じくパプアの農村の社会経済発展を熱く語るデッキーさんに「あの頃の信念を今でも持ち続け、それがさらに進展している」と感銘を受け、デッキーさんからの「また一緒に働かない?」の誘いに迷いもなく「イエス!」と即答したそうです。

エルシーさんはいつも朗らかで元気、そしてとても良くしゃべります。口うるさいおばちゃん、といった感じもありますが、会計についてはプロフェッショナルで妥協を許さない厳しい一面があることで他のスタッフからの信頼を集めています。

「カカオキタ社で働くことが楽しい。30年前に抱いたパプア先住民族の経済的自立の夢を形にしていこう道に会計担当として貢献していくことにやりがいを感じている」とエルシーさん。今日もカカオキタ社の事務所ではエルシーさんのきびきびとした声が響き渡っています。

津留歴子(つる・あきこ/ATJ)

注:インドネシア南部に位置する小スンダ列島の中部から東部を指す。スンバ島、フロレス島、アロル島、ティモール島西部など500以上の島々からなる。



民衆交易でつながる現地の方々を紹介します!

カカオキタのカカオの詳細は、オルター・トレード・ジャパンのサイトへ <http://altertrade.jp/cacao>





特集



バナナの民衆交易が山村の風景を変えた

from フィリピン

自慢のバラゴンバナナを手に記念撮影

フィリピン・ネグロス島最南端にある東ネグロス州シアトン町。現在、ネグロス島には10のバラゴンバナナ生産者組合がありますが、そのうち最も活発な活動を展開しているのが同町にあるマンティケル村のグループです。マンティケル村は、1980年代後半から90年代初頭にかけて政府軍とゲリラの戦闘が激しかったために多くの村民が村外への避難を強いられていましたが、2000年代に入って状況が落ち着くと、人びとは村に戻ってきました。



フィリピン共和国

ネグロス島
東ネグロス州
シアトン町
ココ！

住民の暮らしの支え、共同購買所

マンティケル村では2013年にバラゴンバナナの出荷を開始し、14年に生産者組合を設立。17年12月には、個々の組合員からの出資に加えて、オルタートレード・フィリピン社 (ATPI) からバナナ1箱 (13.5kg) につき5ペソ提供される奨励金を積み立てて共同購買所を設立しました。取り扱い、およそ100アイテム。調味料から缶詰、ソフトドリンクにビール、学用品や石鹸など、品揃えは多岐にわたります。ただ、子どもたちの健康を害するスナック菓子は販売しないと決め



設立して1年半の共同購買所・買い物に来た少年

ています。また、家の修繕や建設に使う釘やベニヤ板、豚の餌など、リクエストに応じた商品の仕入れもします。これらの物資は、バラゴンバナナの出荷日にATPIの空の集荷トラックに載せて町から運ばれる仕組みです。

この村は町から離れた山奥にあるため、日用品を町に買いに出るにも舗装されていないガタゴト道を片道3時間ほど乗合バイクで下っていかねばなりません。共同購買所は組合員以外の住民も利用することができるので、村にはなくてはならない存在となりました。ただし、上限500ペソ (1ペソ約2.1円) までのツケが許されるのは組合員だけの特典です。



村への基本的な運送手段はバイク

いずれは箱詰めも自分たちで

町から離れた場所では農産物を栽培しても、それを売るのも一苦労です。マンティケル村ではサトウキビや根菜のキャッサバ、バラゴン以外の種類のバナナなども栽培していますが、やはりATPIが買い取りに来てくれるバラゴンはとても助かっている、と組合長。

また、村長もバナナ交易が地域に与える効果を高く評価しています。18年末時点で、村の105世帯のうち、96世帯がバラゴン生産者組合のメンバーです。かつては経済的な悩みを抱える村民が多かったようですが、山

奥まで入ってきて適切な価格で買い取ってくれるため、そのような生活相談が減ったとのこと。

マンティケルの生産者組合では、生産者一人ひとりからの買い取り・検品作業も生産者組合で担い始めました。また、収穫したバナナの水洗いや箱詰めはトラックで5〜6時間運んだ先のドマゲッティ市にあるパッキングセンターで行われていますが、数年後には地域でのパッキングを実施することを計画しています。

すべては生産者の組織化から

バラゴンバナナの集荷・輸出、マスコバド黒砂糖の製造および輸出事業を担っているのがATPI、ネグロス島のサトウキビ産地とバナナ産地の一部で社会開発に取り組んでいるのが「食料主権のためのオルタートレード・フィリピン財団 (ATPF)」です。ATPFの活動は、海外のフェアトレード団体や生協などからのプロジェクト支援費の他、輸出用のマスコバド糖1kgにつき3ペソ (1ペソ約2.1円)、バラゴンバナナ1箱あたり15ペソのATPIからの補助金で支えられており、ATPIとATPFは、まさしく流通と社会開発を進める車の両輪です。

サトウキビ生産者は、農地改革によって土地を取得する過程で強固な組織ができあがっていることが多いですが、バラゴンバナナ生産者は個人農家を中心です。そのような個人農家を地域ごとに生産者組合に組織化し、生活改善につながる様々な事業や活動を支援することはATPFの重要な役割の一つですが、マンティケルは、生産者組合が力をつけてきた先進的なバナナ産地の一つと言えます。

赤松結希 (あかまつ・ゆき/ATJ)



バナナに関する詳細はオルター・トレード・ジャパンのサイトへ → <http://altertrade.jp/balangon>

